

(様式8)

## 公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19-建-終-6		区 分	国庫補助 (県単独)
事業名	生活圏30分形成道路整備事業		部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)横手大森大内線		担 当 課 長 名	加藤 修平
箇所名	横手市 田根森		担 当 者 名	主幹(兼)班長 伊藤 茂
総合計画との 関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	4	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	2	施策目標(指標)名	県道改良率

## 1. 事業の概要

事業の 背景及び 目的	本路線は旧大雄村等の周辺町村から、商業や医療施設、学校等が集中している横手市街地への通勤・通学、通院等に利用されている。また、バス路線及び緊急輸送路として位置づけられており、沿線集落の日常生活を支える重要な幹線道路である。しかし、当該区間は家屋が連なっており、狭隘(Wmin=5.0m)で屈曲部(Rmin=85m)が連続し、歩道も未整備のため、大型車のすれ違いや冬期の安全、かつ円滑な交通が困難な状況であった。 そのため、交通隘路区間の解消、防災対策・危機管理の充実、安全な生活環境の確保のため道路整備を行ったものである。							
事業期間	前回	H8年 ~ H17年	総事業費	前回	24.7億円	国庫補助率	-	
	終了	H8年 ~ H17年		終了	24.9億円			
事業規模	前回	延長L = 2,700m 幅員W = 6.0(15.5)m						
	終了	延長L = 2,700m 幅員W = 6.0(15.5)m						
事業効果の 要因変化及び 発現状況	事業費 内訳内容 (千円) 及び 要因変化			前回評価計画	最終	増減	-	理由
		事業費		2,466,202	2,484,000	17,798		
		経 内 費 訳	工事	1,113,835	1,114,000	165		
			用補	1,132,929	1,150,000	17,071	補償対象件数の増加による。	
			その他	219,438	220,000	562		
	事業内容		調査・設計 用地買収補償 改良舗装工	調査・設計 用地買収補償 改良舗装工				
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)					
	最終コスト		終了C / 前回評価C = ( 1.01 )		【便益】 事業費の増額に伴い、費用便益が下がった。			
	費用便益		前回評価B / C = ( 4.12 )		【費用】 用地費について、補償対象件数が増加したため、建物移転費が増額となった。			
	終了B / C = ( 4.10 )							
目標 達成率	指標名	県道改良率						
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)						
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)			
	目標値a	68.8%		データ等の出典	あきた21総合計画H18目標 H18道路現況調書			
	実績値b	69.5%						
	達成率b/a	101.0%		把握の時期	平成19年10月			
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む -							
自然環境の 変化	特になし							
社会経済 情勢の変化	平成17年10月1日に旧横手市外7町村が合併し、横手市となった。							
事業終了後の 問題点及び管理・ 利用状況	現在は県が維持管理しているが、路肩の除草に関しては、周辺部落と調整し、地元の協力を得ることが必要と思われる。歩道を整備したことにより、歩行者の安全性が確保された。							

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 (受益者) 一般県民 (時期: 平成19年 8月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 当該区間を利用する地域住民から、道路整備により安全に走行できるようになり、特に冬期間の安全や歩行者の安全が確保された旨の意見があった。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画において「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」の位置付けあり。
関連プロジェクト等	地域振興プロジェクトである「高速道路ICへのアクセス、地域間交流・連携のための道路網整備」の位置づけあり。
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 (A) B C 住民アンケートにおいて、安全な交通が確保されたという意見が多く出されていた。さらに、満足・やや満足との意見が93%であった。	(A)
	事業の効果 (A) 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 当該事業は計画通り進捗し、あきた21総合計画の 県道改良率目標を上回った。	B C
効率性	事業の経済性の妥当性 (A) B C B/Cが4.1となっており、事業の経済性においては妥当である。	(A)
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし -	B C
総合評価	(A) (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に事業が進捗し、地域住民の交通安全確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

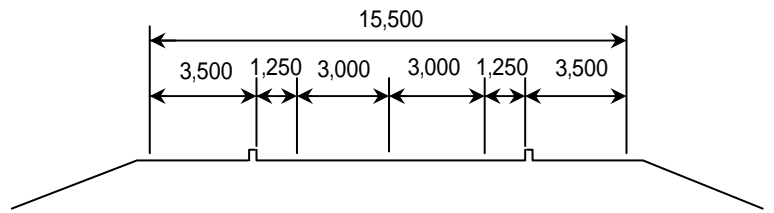
総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

# 主要地方道 横手大森大内線 田根森工区



標準横断図



整備前



整備後

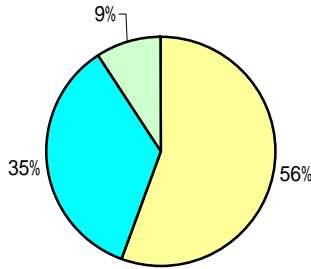
# 道路整備の効果に関するアンケート結果

(主)横手大森大内線 田根森工区

配布枚数: 270 枚  
回収枚数: 243 枚 (回収率 90.0%)

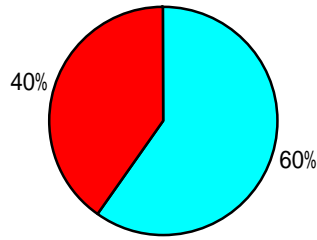
## 回答者の状況

住居地区



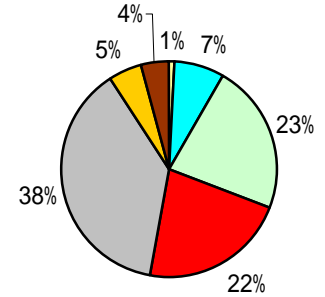
■大森 ■大雄 ■その他

性別



■男性 ■女性

年齢階層

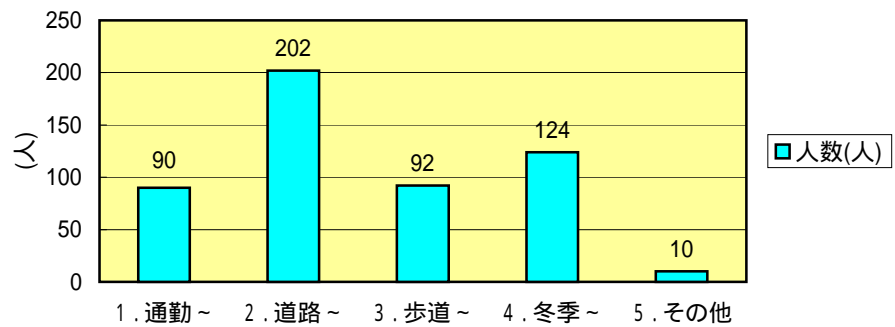


■10代 ■20代 ■30代 ■40代  
■50代 ■60代 ■70代

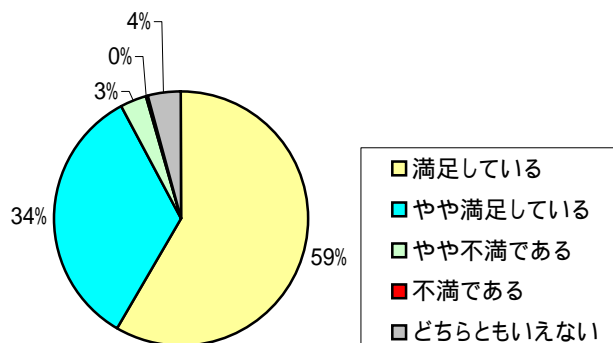
## 調査結果

(設問1) 「(主)横手大森大内線 田根森工区」の道路整備工事が完成したことにより、どのような効果がありましたか。 複数選択も可。

1. 通勤、通学等の時間が短縮された。
2. 道路が広くなったので、安全に走行できるようになった。
3. 歩道が整備されて、通学通勤の安全が確保された。
4. 冬期交通の安全が確保された。
5. その他



(設問2) あなたは「(主)横手大森大内線 田根森工区」の道路整備に満足していますか。



■満足している  
■やや満足している  
■やや不満である  
■不満である  
■どちらともいえない